

オロチ木造工場棟建設見学会が行われました

(株)オロチでは、大型製品の需要の高まりを受けて製品ニーズに対応するために、4m対応のスカーフジョイント（木材繊維を斜めにカットして端部をつなぎ合わせる装置）を導入する第2工場棟の建設工事を行っています。平成26年12月11・12の両日、日南町の木材団地内にある(株)オロチ敷地内にて行われた見学・説明会では、鳥取県職員など行政関係者が工事中の現場を訪れ、工場長よりお話を伺いました。



(株)オロチ新工場の概要

延べ面積:556.5㎡(幅21m・奥行26.5m・高さ7m)の平屋建て木造建築物です。構造材は全て、日南町産の原木を使用。この棟ではヒノキLVL製品を96㎡使用しています。

オロチで生産したLVLを躯体とし、(株)グランドワークス(富山県滑川市)が開発したHストラス工法(金物工法)を採用して、柱のない大空間を実現しました。地域材を使用し、地域のプレカット工場で加工し、地域の工務店で建築できる事を目指した取り組みになります。

新工法が普及するとこう変わります

現在、中～大規模木造建築物の構造材は大断面材の使用が中心となっています。大断面材の使用では、

- 1) 専用の大型加工施設が必要なこと
 - 2) 現場での地組作業(柱や梁などを地上で組み立てる作業)に労力を要すること
 - 3) 一般流通材に比べて高価であること。
 - 4) 現場までの配送に特殊な大型車両が必要であること
- 等が課題となっていました。

今回採用された新工法では、

- 1) 既存のプレカット工場での加工が可能となること。
- 2) 大断面材に比べ、現場での地組作業が容易であること。
- 3) 一般流通材の使用により、大幅なコストダウンが可能となること。
- 4) 通常の大型トラックによる現場への配送が可能となること。

など、在来木造建築工法に比べて様々な利点が上げられます。

また、素材生産をする側にとっても、間伐材などの地域材の利用促進になるだけでなく、地場の設計・地場の工務店・地場の輸送業者の活用をする事が可能となります。これにより、地域の経済活性化にも大きく貢献する事になります。



この手法による工場の建築は、木材利用による地域経済活性化の一つとして注目されています。平成27年1月末には報道関係者向けの説明会も開催されるとの事です。林業を盛り上げるきっかけになればと思います。